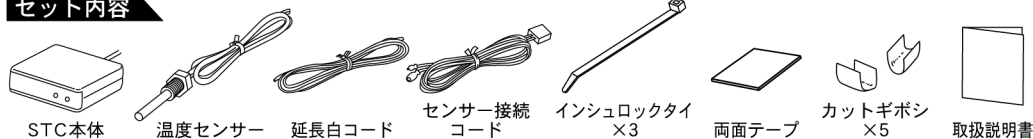


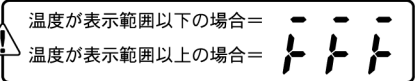
セット内容



各部の名称及び機能

温度表示部

- 水溫と油溫を1℃単位に表示 ①リアル表示 ②ピーク表示
- 表示範囲: 水溫(純正ECU配線時) -20℃~120℃
- 水溫(温度センサー使用時) -35℃~150℃
- 油溫(温度センサー使用のみ) -35℃~150℃
- ファンコントロール設定温度表示(設定時)



水溫表示モニター(青)

- 水溫表示時=点灯 ●ファンコントロール設定時=点滅

油溫表示モニター(赤)

- 油溫表示時=点灯



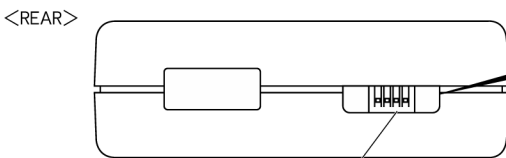
MODE スイッチ

FAN スイッチ

各設定・切換に使用
「操作方法」参照

自動切換表示モニター

自動切換表示時点灯



車種別切換スイッチ

取り付けるクルマに合わせて切り換えます。(右図参照)

このスイッチは、お取り付けになったクルマに合わせて必ず切り換えて下さい。

注意

車種別切換スイッチは、大変小さいため、切り換えは先の細い精密ドライバー、つまようじ等を使用し、確実に行って下さい。(その際、不要に力を入れすぎて奥へ押し込んでしまうようなことのないよう、ご注意ください。)

| | | | | |
|--|---|---|---|---|
| インプレッサ (GDB, GGB, GDA, GGA) レガシィ (H13年5月以降BE5, BH5) | ↓ | ↑ | ↑ | ↑ |
| 三菱 | ↓ | ↓ | ↓ | ↑ |
| 温度センサーを使用した場合 | ↓ | ↓ | ↓ | ↓ |

特長

■水溫/油溫デュアルメーター

- 水溫…純正ECUの水溫センサー信号を接続するだけで高精度表示します。(センサー配管も対応可)
- 油溫…付属の温度センサーを配管し、高精度表示します。
- ピークホールド機能…エンジン始動時からの最高温度を表示します。
- 固定表示と自動切換表示…2種類の温度表示を、どちらか選んで表示させる固定表示と、約2秒間隔で自動切換する表示方法が設定可能です。

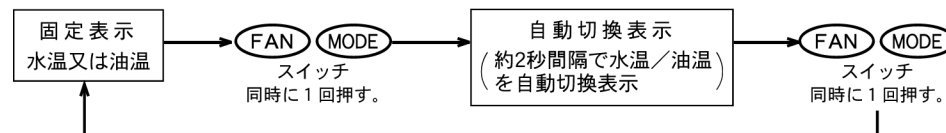
■シーケンシャルファンコントロール

- 電動ファンの作動温度を変更でき、温度差の少ない安定した制御でオーバーヒートやパワーダウンを防止。
- 電動ファンが2台あるクルマは、5℃低い温度からシーケンシャル(連動)させ、さらに安定した水溫管理を行えます。

操作方法

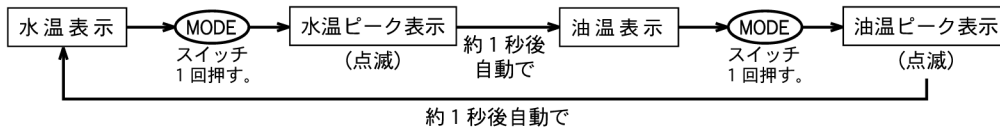
1 固定表示/自動切換表示の切り換え

- 切り換えは **FAN** **MODE** スイッチを同時に押すことで切り換わります。



2 固定表示時の水溫/油溫切換とピーク温度

- 各切り換えは固定表示時にも **MODE** スイッチにて切り換わります。



③ 自動切換表示から、ピーク表示はできません。(MODE) スイッチを押しても、受け付けません。

④ ピーク温度を固定表示させることは出来ません。

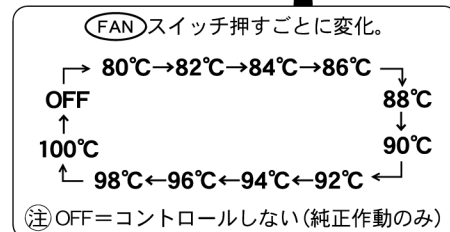
3 ファンコントロール温度の設定

- 切り換えは固定表示時にも **FAN** スイッチにて切り換わります。



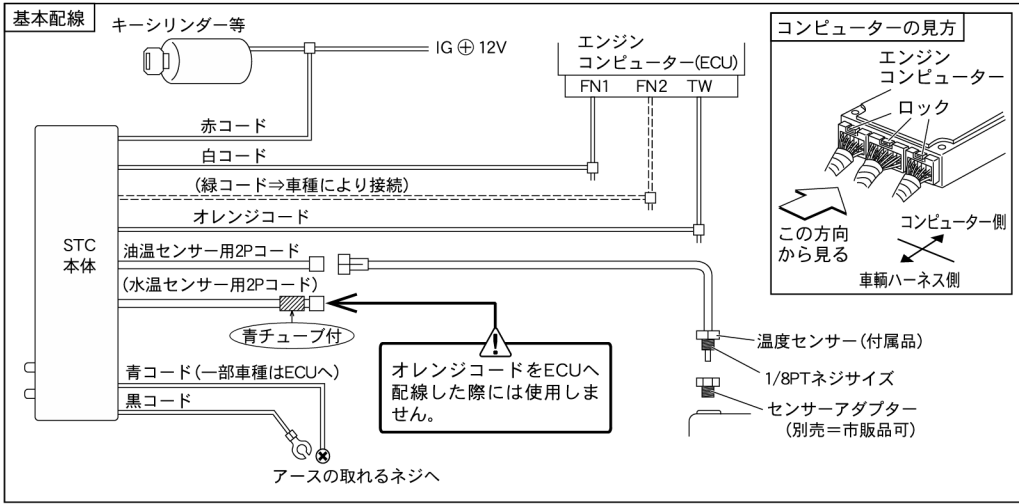
③ ファンコントロールの設定温度を確認したい時は、**FAN** スイッチを1回だけ押すと表示され、そのままにしておくと自動で通常表示に戻ります。

④ 自動切換表示から、ファンコントロールの設定はできません。(FAN) スイッチを押しても、受け付けません。



⑤ OFF=コントロールしない(純正作動のみ)

配線接続方法



取付時のご注意

1. 接続場所のチェック時以外はショート防止の為、必ずバッテリーの⊖端子を外して作業して下さい。
2. 各接続は確実に行い、接触不良とならぬ様ご注意ください。(不確実な接続は正常作動しない原因となります。)
3. 接続部の絶縁は必ず確実に行って下さい。(ショートさせると本器やクルマの故障の原因となります。)
4. コードを引き回す際、ショートや断線のない様ご注意ください。

接続方法

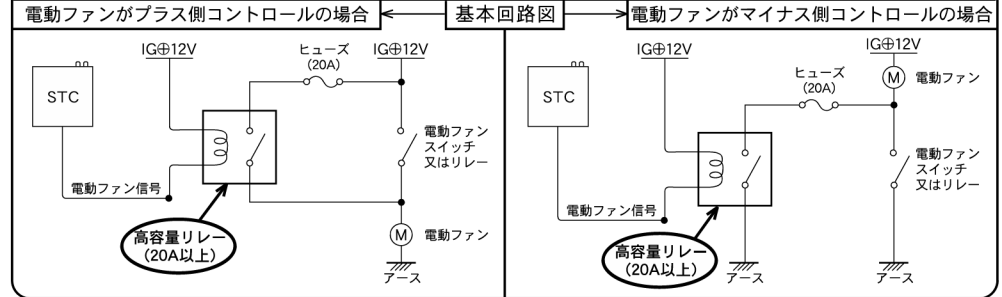
STC本体から出ている各コードを、それぞれ確実に接続します。

赤コード=キースイッチONで⊕12Vの流れる(IG⊕12V)配線へ接続します。

白コード=エンジンコンピューターの電動ファン信号1(「車種別配線図」中=FN1)へ接続します。

注意 車種により、エンジンコンピューター以外の指定場所へ付属の延長白コードを使用して接続する場合があります。詳しくは「車種別配線図一覧」をご参照下さい。

警告 電動ファンモーターを直接コントロールする場合は、コントローラーから出ている電動ファン信号コードを直接配線しないで下さい。コントローラー内のリレーの容量が直接配線に対応していないため、リレーがファンモーター作動時の過電流により破損してしまいます。直接コントロールする時は必ず高容量(20A以上推奨)リレーを使用して配線して下さい。(下図参照)



緑コード=「車種別配線図」中にFN2(電動ファン信号2)の指定がある車種は、接続します。

⇒指定のない車種には緑コードは不要です。先端を絶縁しておいて下さい。

オレンジコード=エンジンコンピューターの水温センサー(「車種別配線図」中=TW)の配線へ接続します。

注意 水温を温度センサー(付属又は別売)で配管接続した場合は、オレンジコードは不要となります。⇒接続しなかった場合には、先端を絶縁しておいて下さい。

青コード=ボディーアースへ接続します。

注意 「車種別配線図」中にアースの指定がある車種については、青コードを指定の配線に接続して下さい。指定のある車種で青コードをボディーアースへ接続すると、安定した温度表示がされない場合があります。

黒コード=ボディーアースへ接続します。

油温センサー用2Pカプラーコード=付属のセンサー接続コードを使用し、温度センサーと接続します。

注意 接続コードとセンサーをつなぐギボシの接続は確実に行い、特にオスカバーがメスカバーの内側へ入り込むようにしっかりネジ込んで下さい。

水温センサー用2Pカプラーコード=水温を温度センサーを使用して表示させる場合に、センサー接続コードを使用して(カプラー根元に青チューブあり)接続します。

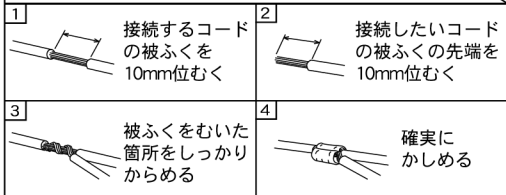
注意 1. オレンジコード(水温センサー信号)を配線接続した車種については、このカプラーコードは使用しません。
2. このカプラーコードを使用した場合は、本体ウラの車種別切替スイッチをすべて下にして下さい。この切替がされていないと、表示は - - - となり、温度表示しません。

温度センサーの取付方法は、裏面をご覧ください。

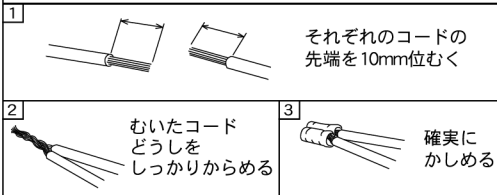
カットギボシの使用法

※半田付けができる場合は行って下さい。

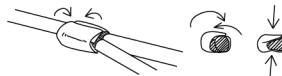
使用方法1 配線の途中にコードを接続する場合



使用方法2 切断線どうしを接続する場合



※カットギボシのかしめには圧着工具をご使用下さい。工具がない場合はラジオペンチ等で折たたむようにしっかりとかしめて下さい。(右図)
※不確実なかしめは断線の原因となりますので、かしめた状態を今一度お確かめのの上、
確実にビニールテープ等で絶縁して下さい。

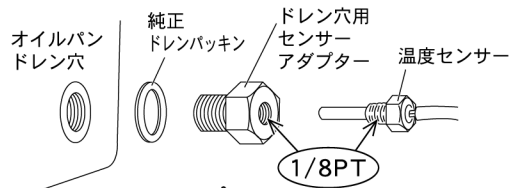


温度センサーの取付

温度センサーを取り付ける際は、取り付ける場所に応じたセンサーアダプターやホースジョイント（センサー取付部1/8PT穴のタイプ=別売）をご用意下さい。

1 油温

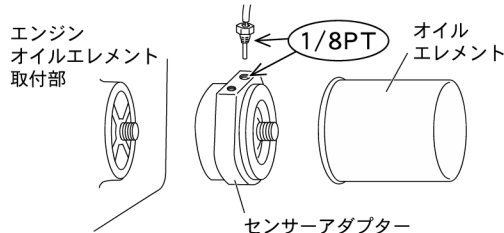
A オイルパンのドレン穴への取付



注意

最低地上高の低いクルマや悪路を走行するクルマの場合、センサーが下方向に突起するような取り付け方になると地面等に接触し、破損・故障の原因となりますので、別の場所へお取り付け下さい。

B オイルエレメント取付部への取付

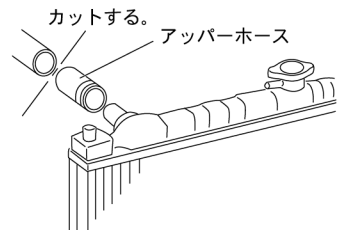


2 水温

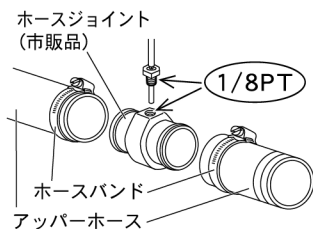
ラジエターのアップパーホースへの取付

1. ラジエターのアップパーホースを適当なところでカットする。

（冷却水が出ますので補充用クーラントをご用意下さい。）

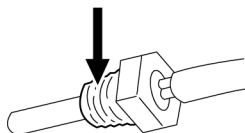


2. カットしたホースへ、ホースバンドを通した上でホースジョイントを挿入し、水漏れのない様、ホースバンドを使用して確実に取り付けます。



温度センサーについて

温度センサーのネジ部の白テープは液漏れ防止用のものですので、そのままアダプターへネジ込んで下さい。



取付についてのご注意

1. センサーアダプターやホースジョイントの取付は必ず確実に行い、液漏れ等ない様、ご注意下さい。又、時々液漏れしていないかをご確認下さい。
2. センサーやコードに急な曲げやねじれが加わらない様に、ホースジョイントの向きをよくご検討の上、お取り付け下さい。
3. 走行後等、エンジン周りが熱い状態での作業は、火傷やケガの恐れがあるため、冷えてから行って下さい。

センサーアダプターやホースジョイントに付属の取扱説明書も合わせてよくお読みの上、作業をして下さい。

PIVOT CORPORATION

株式会社ピボット 〒390-0313 長野県松本市岡田下岡田87-3 TEL0263-46-5901(代)

故障と思われる前に

※修理依頼なさる前に、次の項目をご確認下さい。

| 症状 | 原因 | 対策 |
|---|--|---|
| キースイッチONでイルミが点灯せず 温度表示されない。 | <ul style="list-style-type: none"> ●赤コードの接続・接触不良。 ●青コードの接続・接触不良。 ●黒コードの接続・接触不良。 | ●各コードの接続場所及び接触状態をご確認下さい。 |
| 水温表示が - - - になる。 | <ul style="list-style-type: none"> ●オレンジコードの接続・接触不良。 ●オレンジコードを接続して、車種別切替スイッチが温度センサー使用状態になっている。 ●温度センサーの不良(故障)。 ●温度センサーの配線不良(接触不良・断線等)。 ●温度センサーを使用しているのに、車種別切替スイッチが切り換えられていない。 | <ul style="list-style-type: none"> ●接続場所及び接触状態をご確認下さい。 ●車種別切替スイッチを車種に合わせて確実に切り換えて下さい。 ●温度センサー及びコードの状態をご確認下さい。 ●車種別切替スイッチを「温度センサーを使用した場合」に確実に切り換えて下さい。 |
| 水温表示が トトト になる。 | <ul style="list-style-type: none"> ●表示温度範囲より温度が低い。 ●温度センサーの不良(故障)。 | ●温度センサーの状態をご確認下さい。 |
| 油温表示が - - - になる。 | <ul style="list-style-type: none"> ●表示温度範囲より温度が高い。 ●温度センサーの不良(故障)。 ●温度センサーの配線不良(接触不良・断線等)。 | ●温度センサーの状態をご確認下さい。 |
| 油温表示が トトト になる。 | <ul style="list-style-type: none"> ●表示温度範囲より温度が低い。 ●温度センサーの不良(故障)。 | ●温度センサーの状態をご確認下さい。 |
| 水温/油温どちらの表示状態でも 000 が表示される。 | ●表示温度範囲より温度が高い。 | ●温度センサーの状態をご確認下さい。 |
| 水温/油温の各表示状態で温度表示が急激に変わる。 (例) 80℃から一瞬にして100℃等を表示する場合) | <ul style="list-style-type: none"> ●車種別切替スイッチが設定のない切替状態になっている。 ●赤・青・黒コードの接続場所の電源が不安定。 ●温度センサーの配線不良(接触不良・断線等)。 | <ul style="list-style-type: none"> ●車種別切替スイッチの切り換え状態をご確認下さい。 ●各コードの接続場所を変更する等、ご確認下さい。 ●温度センサー及びコードの状態をご確認下さい。 |
| 設定温度に達しても電動ファンが作動しない。 | <ul style="list-style-type: none"> ●白コードの接続場所・接触不良。 ●設定温度がOFFになっている。 | <ul style="list-style-type: none"> ●接続場所及び接触状態をご確認下さい。 ●設定温度をご確認下さい。 |
| 設定温度より早く電動ファンが作動してしまう。 | <ul style="list-style-type: none"> ●純正の作動温度より設定温度が高い場合、純正が優先され、作動します。 ●緑コードをFN2に接続してある車種は、シーケンシャル作動により、設定温度から5℃低い温度で電動ファンが作動します。 | ●純正の作動温度を確認の上、設定して下さい。 |



注意

次の様な場合は、一時的に設定温度を超える場合がありますが、故障ではありません。

1. 設定温度が低すぎる場合 (およそ85℃以下)
2. 外気温が高い場合
3. 渋滞や停止中でラジエターへの送風や冷却が悪い場合